

# 「社会福祉基礎」:外部講師の授業を行いました

## テーマ「コミュニケーションの基礎」

～体験を通してコミュニケーションの本質や方法を理解する（2限目）～

6月16日（木）2限、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、サンビレッジ国際医療福祉専門学校総学科長 金井浩樹先生と、講演家 栗木大輔先生による2限目の授業を行いました。前回に続き、内容は『コミュニケーションの基礎』です。3年2組の科目選択者16名が受講しました。その様子を紹介します。

### 講義



金井先生の2限目の講義は、1限目の振り返りから始まります。「コミュニケーション上手な人＝話し上手な人でしょうか？」と尋ねられました。

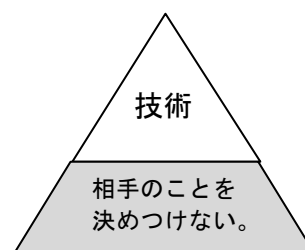
昨年、金井先生のお母さんが病院で診察を受けられた時、2人の医師が診察をしました。一人はパソコンの画面ばかり見ている医師。もう一人は患者と向き合い、患者の話を聴いてくれた医師です。どちらの医師を信頼することができますか。もちろん、話を聴いてくれる医師の方です。

このことから、**①うなづく、②あいづち、③くり返す、④相手の話しをまとめる**、つまり、「話し上手＝聞き上手」であると話されました。

また、6時間にわたって自分の話をし続けた大阪在住の女性の話をされました。その女性はずっと自分ばかり話した後で、「先生は話し上手やわ」と感心されたそうです。金井先生は、ただ、女性の話にうなづくいたり、あいづちをうったりしながら話を聞いてあげたそうです。

つまり、「話す＜聞く＝聞くことが大切」です。

昨年度、「命の授業」のご講演を本校でいただいた腰塚先生は、スキー事故で首を骨折して首から下が動かなくなり、入院されましたが、その時、病院の医師、看護師の方々が自分の話をとことん聞いてくれたそうです。その経験から、「**自信＝自分のことを人に言う**」、つまり、「聴いてくれる人（みなさん）が相手に自信をもたせてくれる」ことがよくわかったそうです。



しかし、ここで大切なことは、**聴くスキルなどの技術だけが、本当のコミュニケーション力ではない**ということです。コミュニケーションは「**相手のことを決めつけない、先入観を持たない**」ことの上に成立します。(右上図)

重度認知症の女性がいて、何年も入浴せず、家の中はゴミだらけなのに、先生はホームヘルパーとしてこの女性に会った時には決して先入観をもたなかったそうです。次第に女性は心を開いてくれました。

また、金井先生は、以前、ある高校生のカウンセリングを引き受けました。その高校生は、成績優秀でサッカーの選抜選手でしたが、3年生の体育祭で燃え尽きて、突然不登校になってしまったそうです。先生はその男子生徒をカンボジアに連れて行きました。当時、アジアの最貧国の一つであったカンボジアのスラム街の子どもたちに会わせて、高校生に自分がいかに恵まれた環境にいるのか理解させるのが目的でした。孤児たち30人が共同生活している場所を訪れた時のことです。世話をしている人たちが自分たちにラーメンを作って出してくれました。そのお汁は近くの汚れた小川の水だと思われました。食べるのを躊躇し、集まってきた孤児が羨ましそうに見ているのを感じ、ラーメンを譲ろうと思いました。その時、年上の孤児が「お客さんに出すものだから食べてはいけない」と他の孤児たちを諭しました。この時、貧乏だからと決めつけていた、自分の思い上がりを恥じて、金井先生は大変ショックを受けたそうです。

また、先生は、日本人の女性観光客が道で財布を落とした時、物乞いのストリートチルドレンがその財布を拾って、落とし主に返す様子を目撃しました。自分がかawaiiそうだと思い込んでいた孤児たちが、実は精神的には非常に気高くて「**先入観で相手のことを決めつけてはいけない**」ということがわかりました。この経験から、老人施設などでは「**相手を決めつけてはいけない、決めつけられて物を言われるのはつらい**」ということを感じてほしいと言われました。

最後に、小学生の頃、恵まれない境遇の中でも頑張っ、患者さんの悲しみを癒せるような医者になるという目的を叶えた人について書かれた「招待状」という短い文を全員で読み、「**先入観を捨てて相手を見ることで、本当のことが初めて分かる**」ことを学びました。

## 講演



ご自身が脳出血による左半身麻痺の障がいをもっておられる、講演家 栗木大輔先生がご自身のお話をされました。

まず、1億2千7百万人の日本人のうち、精神や身体の障がいを持つ人は①十万人、②百万人、③5百万人以上のどれでしょうか。正解は740万人以上(平成25年度内閣府調査)です。百人に5.6人が障がい者です。このことから、「同じ空の下で、同じ地球の一員である」という意識

をもってほしいと話されました。

ご自身は、26歳の時入浴中に脳出血となり、入院・リハビリ生活が始まりました。元の身体に戻れないと知り、人生、結婚、仕事、子ども・・・何もできない、自分は価値がない、と考え、心が折れました。しかし、病院で周囲から普通に話しかけられ、「聞く」ことが大事だと分かりました。それまで、自分を否定していましたが、少しずつ気持ちが変わり、「同じ空の下に住む同じ仲間」の意識一つがあれば、自分と向き合い、人との関わり方が変わると分かりました。

誰か他の人にペットボトルを開けてもらう。障がい者用トイレがあるとうれしい。右手が使えないので、それを察してくれる人に出会うと本当にうれしい。不自由は大変ですが、自分の身体に慣れてくると、障がい者だからできないと決めつけないことが大事です。健常者と障がい者の2つの体験をしたことで、お互いに支え合うことを学ばれました。最後に、「今日は、自分の気持ちを皆さんに伝えることができて幸せです。皆さんの役に立てるのならうれしい」と話されました。

### 授業後の振り返り

#### ➤ 生徒の感想

- ・思い込みや偏見について話を聞いた。また、障がいをもたれた方の話を初めて聞くことができ、とてもよい経験となった。同じ人間として支えていきたいと思った。どんなことも思い込みで相手と接しないで、その人の本当の部分を見ていきたい。よいお話が聞けてよかった。
- ・人は外見や服装だけで全てを理解できないということが分かった。また、障がいは高齢者だけでなく若者でもなり、それでも一生懸命に生きておられることが分かった。
- ・話を聞く時は相手の目をしっかりと見て、うなずいたり、あいづちをうったりすることが大切だと思いました。また、体が麻痺している方の話を聞いて、最初はかわいそうと思っていましたが、「もうこの身体で生活することに慣れた」という言葉を聞いて、人はそれぞれ違う生き方があるのだと思いました。そして、身体の不自由な方が歩いておられたら、道を空けて通りやすくしたいと思いました。

#### ➤ まとめ

話し上手は聞き上手です。①うなずく、②あいづち、③くり返す、④相手の話しをまとめるの聴く技術+相手のことを決めつけないことが必要です。聴くことは難しく、意識しないと聴くことはできません。また、障がいの有無に関わらず、同じ地球に住む、同じ仲間」という意識をもって支え合うことが大切です。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～